

クラス	TU301	担当教員	板垣賢二
テーマ	子ども達が求める楽しい授業作り ～楽しく質の高い算数の授業とは～		
著書・論文	● 「私的算数授業試論 現実と算数数学をつなぐ架け橋その1 紙芝居と算数」 (『数学教室』‘14/10) ● 「私的算数授業試論 現実と算数数学をつなぐ架け橋その2 実験ゲームと算数」 (『数学教室』‘14/11) ● 「私的算数授業試論 現実と算数数学をつなぐ架け橋その3 教具と算数」 (『数学教室』‘15/1)		
研究課題等	● 「割合から連続量の乗除、単位あたり量、比例・比へ 小学校高学年における連続量の乗除に関わる学習を、『1としてみる』認識を形成することを主軸に一貫した授業を展開しようとする試み」(2018年第66回数学教育協議会全国研究大会レポート)		
ゼミナール概要			
キーワード：算数教育、数学教育、楽しい授業、楽しい学校、紙芝居・実験・ゲーム・教具、教材論、授業論			
目的			
算数・数学の学力を、学力格差をつけるための手段としたり、今の経済システムを支える人材育成の柱としてとらえたりするのではなく、すべての子ども達の人間性を豊かに育み、社会や自然を合理的に論理的にとらえ、創造的に変革する力をつけるものとして考え、具体的な授業作りに取り組みます。それは言い換えれば、算数・数学を疎外するものから、子ども達自身の成長の糧となるものへ取り戻す取り組みであるという意味で「子どもたちが求める楽しい授業」という本ゼミのテーマを設定しました。授業の「スタンダード化」「マニュアル化」が進行する今の学校にあって、算数・数学の理論的裏付けと確かな子ども理解に基づいた創造的で個性豊かな授業を創る力を身に着けて欲しいと願います。その力は、算数以外の教科でも力となります。			
内容			
● 教材研究 算数の教材をその学問的価値や系統性や発展性から幅広く比較検討し研究します。 ● 教材開発 教材研究をもとに教具や実験、活動、ゲーム、物語（紙芝居など）を共同開発します。 ● 授業化 子ども達が思わず考えたくなり話し合いたくなるような授業展開を考えます。 ● 教材論・授業論を深め「子どもたちが求める楽しい授業」を作るための仮説を持ち、卒業論文にします。			
方法			
● 以上の内容について、もちろん板垣は一定の意見や考えを持っていますが、それを押し付けることはしません。できるだけ広く授業記録や文献を読み、実際の授業を参観しゼミで論議することで、自分の問題意識をもち学びを深め、仮説を立ててください。 ● 現場の実践家の話を聴き交流をするために、できるだけ現場の実践に触れる研究会に参加します。(8/5～8/7 数学教育協議会全国大会 金沢市、他)			
授業計画			
● 3年生 具体的な教材研究や教材開発・授業について、グループ研究ミニ発表をもとに全体で検討します。ゲーム、教具、お話作りなどの教材作りをします。後半で各自の卒論のテーマ（仮説）を決めます。 ● 4年生 卒業研究の中間発表を集団で討議しながら進めます。			
随時みなさんと相談しながら進めます。			
担当教員からのメッセージ			
● 僕は現場の小学校教員（実践家）でしたので、広く先行研究を熟知し仮説を立て様々な実践や事例を分析するという意味での「研究者」ではありませんでした。しかしみなさんには、これからの2年間、しっかり「研究者」になって欲しいと思います。研究に没頭できる時間は、そうあるものではありません。僕もこのゼミを通して様々な論説や実践に出会い、自分の実践を検証しようと目論んでいます。ですから、このゼミに僕も共に学ぶ姿勢で臨むつもりです。僕自身の実践や理論の紹介はもちろんしますが、それを契機とし、また検証の対象としながら、みなさん自身が研究を深めるというスタンスを取っていただきたいと思います。 ● 「自分は算数や数学は嫌いだった」「苦手だった」という人ほど大歓迎です。その原因を見つけ何とかしたいという願いを持っている人の方が、むしろ得意な人より今の算数教育の課題を見つけることができるのかもしれない。僕も実は大学まで文系でした。今も数学はそんなに得意ではありません。でも数学が面白いと思っています。算数の授業が大好きです。しかし「今も嫌いだからやる気はない」「算数数学は答えが決まっていて授業が楽（らく）そうだから」という人はご遠慮ください。 ● 「楽しい授業」は「楽しい学級」「楽しい学校」の基本です。「子ども達の求める楽しい学校」を作るための研究をしたいという方も歓迎です。自己流のネタはたくさんあります。			